

Title	《報告》BCCWJにおける「名詞の助数詞的用法」について：雑誌資料を例に
Author(s)	東条, 佳奈
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2020, 54, p. 65-79
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/91390
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

《報告》BCCWJにおける 「名詞の助数詞的用法」について

—雑誌資料を例に—

東条 佳奈

キーワード：名詞／助数詞／擬似助数詞／準助数詞／雑誌

1. はじめに

日本語ではものを数える際に「紙1枚」の「-枚」のように、助数詞とよばれる接辞を用いる。「-枚」は、「*枚の紙」のように、数字と切り離して独立して用いることができない。しかし、数詞に続く表現の中には、「2項目挙げる」「3容疑者を逮捕」の「項目」や「容疑者」のように、名詞を助数詞のように用いるものが見られる。「-項目」については、項目そのものを数え上げられる点、文型を限定せずに用いられる点、どのような数詞とも結合する点から「助数詞」といえるが、「-容疑者」は、「*1容疑者、2容疑者…」と数え上げることができず、「*何容疑者が逮捕されましたか？」のように不定数とも結びつかず、「*その事件の容疑者を3容疑者逮捕した」のようなNCQ型の数量詞構文も作れないなど、「助数詞」とは異なるふるまいを見せる。

数詞に続く名詞を「助数詞」と捉えるか、それとも「名詞」と捉えるかの認定の基準については種々の議論がある（影山他2011、田中2012、眞野・米澤2013等）が、これらは主に「数詞に結合した名詞」から「助数詞」を認定することに焦点が当てられており、「3容疑者」のような「数詞に続くが助数詞とはいえないもの」、いわば「擬似的に助数詞を模した名詞」につ

いては研究の対象から外されてきた。このような、擬似的に助数詞を模した表現にどのような特徴があるのかについては、様々な資料よりこれらの表現を抽出して検討する必要がある。

そこで本稿では、数詞に続く名詞を「名詞の助数詞的用法」と捉え、従来助数詞ではないとされてきたものも含めて包括的に扱いつつ、これらが雑誌という媒体においてどのように用いられているのかについて調査を行った。

2. 「名詞の助数詞的用法」の特徴と問題の所在

本稿では、数詞に続く名詞を一括して「名詞の助数詞的用法」と捉え、分析の対象とするが、これらの表現がどのような類型として捉えられるかについて、主に東条（2014a,b）の内容を元にまとめたい。

数詞に直結した名詞を「名詞と同形の助数詞」として分類し、特徴をまとめた成田（1990）をふまえ、新聞一年分のデータを用いて、より詳細な分類の作成とこれらの表現の類型化を試みたのが東条（2014a）である。東条（2014a）では、数詞に続く名詞を「名詞型助数詞」と呼び、これらには「容器型助数詞」「準助数詞」「擬似助数詞」と呼ぶべき下位類があることを指摘した。それぞれの特徴は以下のようなものである。

(1) 容器型助数詞

名詞起源ではあるが名詞の側面が希薄であり、「容器などを目安に、ある物の量を測る」という目的のためにもっぱら用いられるもの。

(2) 非容器型助数詞

容器型ではない、名詞の性質を残したまま数詞に続いているもの。「前に来る数に制限があるかどうか」（名詞の数を数え上げる性質）という「可付番性」の有無により、「準助数詞」と「擬似助数詞」に分けられる。

(2-1) 準助数詞

「3項目挙げる」の「-項目」のように、その名詞を用いて数え上げ

ることができるもの。前に来る数に制限がなく、典型的な助数詞に準じて助数詞体系を補うために使われる。これらは抽象的な関係を示す意味領域に多いという特徴をもつ。また、副詞的位置に生起できる語や特定の構文の型に偏らずに使用できるものを含む。

(2-2) 擬似助数詞

「3容疑者を確保」の「-容疑者」のように、助数詞の形を模した名詞であるもの。数と名詞の結びつきが臨時的であるため、数を自由に入れ替えることができない。これらは人物や機関に関わる意味領域に多く、「A,B,Cの3容疑者を逮捕」「防衛、外務など4閣僚を集め」のようなNノQC型やNQC型の構文に偏るという傾向がある。

(1)は、「さら」や「はこ」のように、成田(1990)が、連続量として測られるものを、容器等を目安に数えているものやそれに近いもの、としている語である。これらは影山他(2011)で「計量詞」と呼ばれているものと同様に、対象の意味カテゴリーに関係なく数量をはかるものである。

(2)の「非容器型助数詞」を分析するにあたり、東条(2014a)は「可付番性」の有無という観点から、これらを二分している。その名詞に可付番性があるか否かは、不定数である「何(なん)」を付加できるかどうかというテストを用いて判断している。「何」を冠することができる名詞は、前に来る数に制限がなく、数を数え上げられるものであるとして「準助数詞」と判断し、「何」をおくと不自然であれば、「数を数え上げることができない」臨時的な数と名詞の結びつきのものとして「擬似助数詞」と判断している。このようにして区別した「準助数詞」と「擬似助数詞」について東条(2014a,b)は、意味領域、前接する数、構文といった点で違いが見られることを指摘する。

一方で、東条(2014a)は、両者の境界は明確に区別できるものではなく、レジスターや資料の年代によっても異なる結果になる可能性について述べており、加えて、上記の分析は、全て新聞資料(主に『CD-毎日新聞データ集'91』)を調査の対象としており、他の媒体において「準助数詞」や「擬似

助数詞」がどのような様相を示すのかについては明らかになっていない。特に、特定の文型に偏ると東条（2014b）で指摘される「擬似助数詞」が、新聞以外の資料でも用いられるのかについては検討すべき点だと思われる。

そこで、本稿では、東条（2014a,b）をふまえ、新聞とは異なる書き言葉のテキストとして、雑誌資料を対象に、「どのような名詞の助数詞的用法（語例）があるか」「新聞における用例と違いがあるか」を調べることを目的とした。

3. 調査概要

3.1 BCCWJ「雑誌」資料について

雑誌における名詞の助数詞的用法の調査にあたり、本稿では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）の「出版」サブコーパス内の「雑誌」レジスターを用いた。「出版」サブコーパスには、2001年から2005年の間に国内で出版された書籍・雑誌・新聞よりランダムサンプリングした3,500万語分のデータが収録されている。山崎（2015）によれば、同サブコーパスは、「書き言葉を生産する書き手の立場を重視したもの」であり、「売れ行きや知名度にかかわらず、出版された書き言葉であれば、どの書籍（雑誌、新聞）も同じ確率で選ばれるように」サンプルを収集したコーパスで、語彙やコロケーションなど言語的属性の多様性を期待した資料であるという。サブコーパスに含まれる「雑誌」レジスターは1,996サンプル、約450万語からなる。

3.2 調査方法

調査にはオンライン検索ツール『中納言』を用いた。「雑誌」レジスターのコアデータ・非コアデータを対象に、“「品詞-小分類-数詞」+後方共起条件「品詞-中分類-普通名詞」”をキーとして設定し、検索を行った。

次に検索結果より、固有名詞の一部のもの、名詞と同形でない助数詞、3俵の「俵」など名詞として用いる際に読みが異なる助数詞、順序や型番など

の名称を表すもの、「一安心」のように一語化しているものを対象から除外した。このようにして得られた語例について、東条（2014a）と同様に、意味領域の分布の確認と可付番性の調査を行い、BCCWJ「雑誌」資料における名詞の助数詞的用法の表を作成する、という手順をとった。

意味領域の検討には、『分類語彙表一増補改訂版』（国立国語研究所2004、以下『分類語彙表』）を用いて分類番号と照合し、部門と中項目を用いて分類した。同じ中項目内で分類項目が異なるものについては|印を置いて区別した。なお、『分類語彙表』に記載のない語については、あてはまると思われる意味領域に分類した¹⁾。その際、容器そのものあるいは容器状のものを計量の目安としている語例は「容器型助数詞」として区別した。

次に、可付番性の調査として、「何（なん）」を冠する用例の有無を調査した。こちらも東条（2014a）と同様に、検索エンジン Google を用いて、「何○○」の形で完全一致検索し、一例でも例があれば「可付番性あり」、すなわち「準助数詞」として、なければ「可付番性なし」、すなわち「擬似助数詞」と判断した。

4. 名詞の助数詞的用法の語例

前述の手順で調査した結果、BCCWJの「雑誌」資料からは381種の名詞の助数詞的用法の語例が得られた。「容器型助数詞」が23種、「準助数詞」が273種、「擬似助数詞」が85種という結果となった（表1・表2）。表1・表2では、『分類語彙表』の分類番号に基づいて、意味分野（部門）、中項目、語例の順に示した。語例の冒頭の数字は、中項目ごとの語例の数（種類）である。なお、表内の二重下線部は、東条（2014a）の91年の毎日新聞を対象に行った調査結果と共通して得られた語例を表している。

【表1】BCCWJ「雑誌」における容器型助数詞

抽象的關係（14種）	
量	(13) <u>カップ</u> 、 <u>缶</u> 、 <u>串</u> 、口、さじ、皿、束、玉、 <u>粒</u> 、 <u>箱</u> 、 <u>パック</u> 、 <u>瓶</u> 、 <u>袋</u> 、房
生産物および道具（9種）	
資材	(1) ピン
道具	(8) カプセル 樽 <u>ケース</u> 、トレー <u>バッグ</u> <u>鉢</u> 、ポット <u>針</u>

表1の容器型助数詞は、新聞での調査で得られた語例（11種、二重下線部）を全て含むという結果になった。雑誌資料の方が、容器型と捉えられる語例のバリエーションがやや多いといえる。

次に、「準助数詞」と「擬似助数詞」の意味領域ごとの分布（表2）をみていく。準助数詞273種のうち、最も多かったのが〈抽象的關係〉にあたる語の140種（51.2%）で、次に〈人間活動-精神および行為〉にあたる58種（18.6%）、〈人間活動の主体〉にあたる語42種（15.3%）が続く。準助数詞が〈抽象的關係〉を示す語に多いという結果は、新聞での調査と共通するものになった。

一方、擬似助数詞は、準助数詞と比較すると、得られた語例が85種と少ない。このうち47種（55.2%）が〈人間活動の主体〉にあたる語例である。その中でも「機関」より「成員」など人を表す語が多い。そのほかの意味分野では〈人間活動-精神および行為〉が16種、〈生産物および用具〉が12種、〈抽象的關係〉11種とほぼ数に差がなかった。また、全体的に外来語（カタカナ語）が多いように思われる。

5. 分析

5.1 新聞における語例との比較

準助数詞のうち、新聞にも出現していた語例は130種（47.6%）²⁾であった。4節に挙げた3種の意味領域（〈抽象的關係〉、〈人間活動-精神および行

【表2】BCCWJ「雑誌」における準助数詞・擬似助数詞

意味分野	中項目	準助数詞 (273種)	擬似助数詞 (85種)
抽象的關係	事柄	(6) 案件、 <u>項目</u> 、例 <u>個体</u> 、サンプル、 <u>データ</u>	
	類	(26) カテゴリー、 <u>機種</u> 、 <u>業種</u> 、形式、 <u>車種</u> 、ジャンル、種類、症例、 <u>タイプ</u> 、 <u>パッケージ</u> 、 <u>品種</u> 、 <u>種目</u> 、 <u>部門</u> 、 <u>モデル</u> <u>階級</u> 、 <u>階層</u> 、 <u>クラス</u> 、 <u>グレード</u> 、 <u>系統</u> 、系列、 <u>盛</u> 、 <u>段階</u> 、 <u>ランク</u> 、 <u>レベル</u> <u>条件</u> 、 <u>アクセス</u>	(1) トップ
	存在	(1) 構成	(1) シークレット
	様相	(6) <u>業態</u> 、 <u>側面</u> <u>画素</u> 、システム、 <u>要素</u> <u>波乱</u>	(2) テイスト <u>テクスチャー</u>
	作用	(8) 回路、 <u>コース</u> <u>ターン</u> <u>往復</u> <u>編成</u> <u>プッシュ</u> <u>絞り</u> 、 <u>巻き</u>	(1) ストップ
	時間	(11) <u>ラップ</u> <u>拍子</u> <u>昼夜</u> <u>クール</u> 、 <u>シーズン</u> <u>世代</u> <u>晩</u> <u>ステップ</u> <u>工程</u> <u>舞台</u> 、 <u>ポジション</u>	(3) <u>時節</u> <u>四半期</u> <u>節句</u>
	空間	(25) <u>会場</u> 、 <u>拠点</u> 、 <u>コーナ</u> 、 <u>サイト</u> <u>辺</u> <u>議席</u> 、 <u>区画</u> 、 <u>区間</u> 、 <u>口座</u> 、 <u>座席</u> 、 <u>セグメント</u> 、 <u>選挙区</u> 、 <u>打席</u> 、 <u>地域</u> 、 <u>地区</u> 、 <u>部落</u> 、 <u>ブロック</u> 、 <u>分野</u> 、 <u>領域</u> 、 <u>枠</u> <u>区切り</u> <u>方向</u> 、 <u>立面</u> <u>画面</u> <u>回り</u>	(3) <u>営業拠点</u> <u>ライン</u> <u>サイド</u>
	形	(7) 形態、 <u>サイズ</u> 、 <u>ポーズ</u> <u>塊</u> 、 <u>ロール</u> <u>スロット</u> <u>ピース</u>	
	量	(51) 失点、 <u>打点</u> 、 <u>得点</u> <u>カウント</u> 、 <u>周波数</u> 、 <u>チャンネル</u> <u>拍</u> 、 <u>ビート</u> <u>バート</u> <u>単位</u> 、 <u>ユニット</u> <u>グループ</u> 、 <u>集落</u> 、 <u>シリーズ</u> 、 <u>セッション</u> 、 <u>ペア</u> 、 <u>群れ</u> <u>アイコン</u> 、 <u>回線</u> 、 <u>回転</u> 、 <u>学年</u> 、 <u>株</u> 、 <u>行</u> 、 <u>旬</u> 、 <u>組</u> 、 <u>けな</u> 、 <u>語</u> 、 <u>こま</u> 、 <u>子</u> 、 <u>車線</u> 、 <u>草</u> 、 <u>筋</u> 、 <u>世紀</u> 、 <u>座</u> 、 <u>ページ</u> 、 <u>層</u> 、 <u>坪</u> 、 <u>点</u> 、 <u>バンク</u> 、 <u>ピクセル</u> 、 <u>ビット</u> 、 <u>墨</u> 、 <u>文</u> 、 <u>ページ</u> 、 <u>ポイント</u> 、 <u>マイル</u> 、 <u>ます</u> 、 <u>画</u> 、 <u>ラウンド</u> 、 <u>列</u>	
			計140種
人間活動の主体	人間		(5) <u>地藏</u> 、 <u>天使</u> 、 <u>天神</u> 、 <u>如来</u> <u>女性</u>
	家族	(2) <u>家族</u> <u>兄弟</u>	(1) <u>姉弟</u>
	人物	(2) <u>民族</u> <u>選手</u>	(5) <u>市民</u> 、 <u>住民</u> <u>学者</u> 、 <u>歌仙</u> 、 <u>闘士</u>
	成員	(5) <u>役</u> <u>アーティスト</u> <u>キャリア</u> <u>捕手</u> 、 <u>メーカー</u>	(20) <u>議員</u> 、 <u>代議士</u> 、 <u>店員</u> <u>大関</u> 、 <u>カウンセラー</u> 、 <u>講師</u> 、 <u>作家</u> 、 <u>写真家</u> 、 <u>獣医</u> 、 <u>俳人</u> <u>團長</u> 、 <u>大臣</u> <u>商人</u> <u>使用人</u> <u>將軍</u> <u>首長</u> <u>サーバー</u> 、 <u>ドライバー</u> 、 <u>被告</u> 、 <u>ボランテ</u>
	公私	(8) <u>家庭</u> 、 <u>世帯</u> <u>都市</u> <u>区</u> 、 <u>県</u> 、 <u>市</u> 、 <u>州</u> 、 <u>都道府県</u>	(2) <u>小国</u> <u>農村</u>
	社会	(12) <u>フロア</u> <u>学部</u> 、 <u>大学</u> <u>駅</u> 、 <u>銀行</u> 、 <u>工場</u> 、 <u>農場</u> <u>クラブ</u> 、 <u>ショップ</u> 、 <u>店舗</u> 、 <u>病院</u> 、 <u>ホテル</u>	(9) <u>高校</u> 、 <u>帝大</u> <u>オフィス</u> 、 <u>会社</u> 、 <u>公社</u> 、 <u>製鉄所</u> 、 <u>本社</u> 、 <u>養鶏農場</u> <u>医局</u>
	機関	(14) <u>機関</u> 、 <u>支部</u> 、 <u>部局</u> <u>施設</u> <u>委員会</u> <u>師団</u> <u>球団</u> 、 <u>組合</u> 、 <u>サークル</u> 、 <u>教堂</u> 、 <u>組織</u> 、 <u>団体</u> 、 <u>チーム</u> 、 <u>バンド</u>	(4) <u>本部</u> <u>内閣</u> <u>公団</u> 、 <u>リーグ</u>
		計43種	計46種
人間活動の精神および行為	心	(11) <u>分類</u> <u>課題</u> 、 <u>題</u> <u>学科</u> 、 <u>教科</u> <u>法</u> <u>手法</u> 、 <u>仕様</u> <u>案</u> 、 <u>プロジェクト</u> 、 <u>法案</u>	(6) <u>研究</u> 、 <u>専攻</u> <u>構想</u> 、 <u>願望</u> <u>手段</u> <u>計画</u>
	言語	(12) <u>タイトル</u> 、 <u>ブランド</u> 、 <u>銘柄</u> <u>フレーズ</u> <u>文字</u> <u>リスト</u> <u>媒体</u> <u>回答</u> <u>段落</u> <u>番組</u> 、 <u>品目</u> 、 <u>メニュー</u>	(4) <u>指標</u> <u>キャンペーン</u> <u>カルテ</u> 、 <u>スベック</u>
	芸術	(4) <u>作品</u> <u>シナリオ</u> <u>カット</u> <u>曲</u>	
	生活	(19) <u>安打</u> 、 <u>アンダー</u> 、 <u>イーグル</u> 、 <u>競技</u> 、 <u>ゲーム</u> 、 <u>ゴール</u> 、 <u>三振</u> 、 <u>試合</u> 、 <u>ショット</u> 、 <u>ストローク</u> 、 <u>ダイブ</u> 、 <u>盗塁</u> 、 <u>パーディー</u> 、 <u>ヒット</u> 、 <u>ホームラン</u> 、 <u>ホール</u> 、 <u>本塁打</u> 、 <u>レース</u> <u>クリック</u>	(2) <u>アーチ</u> 、 <u>殺法</u>
	行為	(2) <u>挙動</u> 、 <u>動作</u>	(1) <u>大罪</u>
	交わり	(2) <u>大会</u> <u>ライセンス</u>	(2) <u>冬季大会</u> 、 <u>部会</u>
	待遇	(3) <u>アシスト</u> 、 <u>セーブ</u> <u>賞</u>	
	事業	(5) <u>事業</u> <u>企業</u> <u>検体</u> <u>公演</u> 、 <u>場所</u>	(1) <u>新興企業</u>
		計58種	計16種
生産物および用具	物品	(4) <u>アイテム</u> 、 <u>パーツ</u> 、 <u>物件</u> <u>商品</u>	
	資材	(4) <u>素材</u> <u>軸</u> <u>ボタン</u> <u>弦</u>	(4) <u>教材</u> <u>パイプ</u> <u>バルブ</u> <u>コイル</u>
	衣料	(2) <u>ポケット</u> <u>ベッド</u>	(1) <u>アイレット</u>
	食料	(1) <u>ドリシク</u>	
	住居	(7) <u>塔</u> <u>工房</u> 、 <u>部屋</u> 、 <u>ルーム</u> <u>ステージ</u> 、 <u>フレーム</u> <u>ドア</u>	(1) <u>ビュッフェ</u>
	道具	(1) <u>製品</u>	
	機械	(3) <u>チップ</u> 、 <u>ポート</u> <u>機器</u>	(6) <u>ライト</u> <u>アンテナ</u> 、 <u>ステレオ</u> 、 <u>スピーカー</u> <u>エンジン</u> 、 <u>シリンダー</u>
土地利用	(4) <u>コート</u> 、 <u>団地</u> 、 <u>トラック</u> <u>路線</u>		
		計26種	計12種
自然現象	自然	(1) <u>カラー</u>	
	物質	(1) <u>塩基</u>	
	天地	(3) <u>大陸</u> <u>シーン</u> 、 <u>場面</u>	
	生命	(1) <u>こぶ</u>	
		計6種	なし

為)、〈人間活動の主体〉)においてはそれぞれ約半数の語例が新聞の調査でも用いられていた語例である。準助数詞は助数詞として用いられる名詞であるという位置づけのため、ジャンルを問わず使用される方が自然であるといえる。そのため、レジスター間で共通する語例が多いほど準助数詞の特徴が表れていると考えられる。

全体の語例に対し、新聞と共通する語例の割合が少なかったのは〈生産物および用具〉であった。新聞での調査における〈生産物および用具〉にあたる準助数詞は11種(東条2018:9)であり、そもそも数が多くないが、雑誌資料の用例の方が具体的な事物をそのまま数詞に後接させて数える用法が多いと考えられる。

擬似助数詞において、新聞の調査結果と共通していた語例は14種(16.4%)であった。準助数詞に比べて少ないが、これは臨時的に、文脈に依存して用いられるという擬似助数詞の性質と一致する結果であったといえる。

前節にて擬似助数詞に外来語が目立つと述べたが、雑誌から収集した語例全体を見ても外来語は少なくなく(128種、34.9%)、準助数詞のうち、新聞の調査と共通してみられない語例にも外来語の割合は多い(61種、42.6%)。東条(2014a)では、新聞で収集した語例について、圧倒的に漢語が多いことが指摘されているが、雑誌資料では異なる結果になったといえる。

5.2 ジャンル別の語例

新聞と異なる、雑誌媒体の資料的な特性として、ジャンルの幅広さという点が挙げられる。そこで本項では、雑誌のジャンル別に、どのような名詞の助数詞的用法が得られたかを概観する。BCCWJに収録されている雑誌レジスターのジャンルは大きく「総合」「教育・学芸」「工業」「政治・経済・商業」「厚生・医療」「産業・農林水産」の6分野に分けられるが、「総合」に分類されるジャンルが多岐にわたるため、そのまま集計すると「総合」に用例が偏る結果となってしまう。そこで、一段階細かい分類を使用して、上位20位までのジャンルごとの用例数を示したものが表3である。

【表3】雑誌のジャンル別用例数

雑誌の分類名	用例数
総合／一般／婦人誌	687
工業／機械／自動車・オートバイ・自転車	617
総合／一般／一般週刊誌	495
工業／電気機／電子／コンピュータ／情報処理	416
総合／一般／東京都／タウン・地域誌	324
総合／スポーツ／球技	284
総合／レジャー／趣味／写真・カメラ	239
総合／家庭／生活／ファッション	232
総合／一般／総合誌	202
総合／一般／女性週刊誌	192
政治・経済・商業／経済／経営／経営／経済	172
総合／家庭／生活／生活情報	165
総合／レジャー／趣味／囲碁・将棋	160
総合／一般／読み物	158
総合／娯楽／芸能／ヤング	134
総合／レジャー／趣味／模型・無線・コンピュータゲーム	127
教育・学芸／文学／芸術／文学・文芸総合	120
総合／娯楽／芸能／テレビ・ラジオ・芸能・映画	109
教育・学芸／文学／芸術／芸術・美術	98
総合／家庭／生活／住居・インテリア	92

最も用例数が得られたのは『オレンジページ』などの「総合／一般／婦人誌」ジャンルの687例であった。次に『AUTOSPORT』など「工業／機械／自動車・オートバイ・自転車」ジャンルの617例、3番目に『週刊ポスト』など「総合／一般／一般週刊誌」が、4番目に『DIGITAL CAMERA MAGAZINE』などの「工業／電気機／電子／コンピュータ／情報処理」の416例が続く。

表3を見ると、頻度上位20位の範囲の中には

「厚生・医療」「産業・農林水産」ジャンルの雑誌がない。「政治・経済」や「教育・学芸」分野もほとんどなく、偏りがある結果となった。大半が大分野「総合」にあたる、総合情報か生活や趣味に関わる内容もしくは（大分類が総合であっても）電子機器を主に扱うものであった。

より具体的に検討するために、頻度上位10位までの雑誌ジャンルについて、高頻度の語例を示したものが表4である。

表4を見ると、複数のジャンルにわたって使用されている語があることがわかる。具体的には、上位10ジャンル全てで用いられ、かつ、高頻度の語として「点」が挙げられる。また、「種類」、「ページ」もほとんどのジャンルにわたって使われている。一方、特定のジャンル内で高頻度であっても、

【表4】上位10ジャンルの高頻度語

総合／一般／婦人誌	687	機械／自動車・オートバイ・自転車	617	総合／一般／一般週刊誌	495
ページ	100	列	68	点	109
カップ	96	点	50	ページ	28
種類	63	コーナー	49	ポイント	20
点	56	種類	30	種類	18
段	47	シリーズ	28	試合	14
席	22	段	27	店舗	14
晩	17	バルブ	25	坪	12
袋	15	モデル	23	区	11
区	14	タイプ	19	株	11
票	13	ドア	19	段	9
電子／コンピュータ／情報処理	416	総合／スポーツ／球技	284	総合／一般／東京都／タウン・地域誌	324
画素	76	試合	48	点	209
種類	60	点	22	種類	14
ページ	29	セット	19	曲	14
ポート	23	トップ	19	組	10
点	17	ページ	17	作品	8
コマ	16	チーム	14	店舗	7
ピクセル	14	シーズン	13	ケタ	6
機種	12	得点	11	試合	4
ビット	11	ゴール	10	ドリンク	4
形式	10	コマ	9	字	4
総合／レジャー／趣味／写真／カメラ	239	総合／家庭／生活／ファッション	232	総合／一般／総合誌	202
画素	80	種類	38	種類	26
点	36	点	30	点	18
コマ	30	票	30	ページ	16
種類	16	ページ	22	議席	9
段	10	層	10	席	7
機種	7	ブランド	8	段階	6
段階	6	ポケット	7	公団	6
ページ	6	皿	6	晩	5
作品	5	アイテム	6	面	5
組	4	サイズ	5	段	4
総合／一般／女性週刊誌	192				
点	26				
カップ	23				
種類	21				
席	17				
粒	13				
例	12				
段	6				
世帯	6				
皿	6				
セット	5				

他のジャンルでは使われていない語もある。「コーナー」「バルブ」「ドア」（以上、「機械／自動車・オートバイ・自転車」）、「ポート」「ピクセル」（以上、「電子／コンピュータ／情報処理」）等である。様々な情報を扱う総合雑誌に比べて自動車やコンピュータ関係の雑誌は特定の情報に特化している点で専門性が高い。また、「バルブ」や「ドア」「ポート」などは、車やパソコンを構成する部品そのものの数を示すために、名詞に数をつけて、単位のように使われる。こうした用法は工業分野やカメラなど特定の趣味を扱う専門誌に顕著であり、加えて、部品名は外来語であることが多い。新聞の調査に比べて雑誌資料で外来語の語例の割合が大きくなった要因にはこうした用法が影響していると考えられるが、今回得られた外来語の語例は専門語だけではないため、より詳細な分析が必要であると思われる。

なお、表4で示した名詞の助数詞的用法の語例のうち、高頻度の語はほとんどが準助数詞にあたる名詞であり、擬似助数詞にあたる名詞は「公団」のみであった。

5.3 雑誌レジスターにおける擬似助数詞

どのような名詞が擬似助数詞となりうるのかについて検討した東条(2017)では、擬似助数詞が多く現れる「人を表す語」（〈人間活動の主体〉の「人物」「成員」等）の中でも、和語や長大な複合語は数詞と結合せず、語構成的要因を除いても、一時的、相対的な立場を表す語は数詞に結びつきづらいことを指摘している。表2を見ると、雑誌資料においてもこの傾向は同様といえる。また、雑誌における〈人間活動の主体〉の「人を表す語」は、「人間」「人物」「成員」に分類される語例が当てはまるものの、中には、「地藏」「天使」「如来」「歌仙」など、特定の指示対象が定められ、さらに数詞と名詞を切り離さず一まとまりの語として固定的に用いられる語例（「三如来」「六歌仙」など）も見られる。また、実際の文脈を見ると、「一市民」「一学者」「一使用人」のように、数量を示さない例も見られた。これらを除くと、「人を表す語」の語例自体が少なくなり、新聞の調査で偏って見られ

ていた「A,B,Cの3容疑者を逮捕」のようなN/Q型の構文(2節)についても、偏るといふほどの用例は得られなかった。しかし、(3)(4)のように、人物名を列挙した上で、擬似助数詞部の名詞でその数量をまとめあげるという表現は雑誌においても見られたため、擬似助数詞を用いた表現が、新聞でのみ用いられる特有の表現ではない、ということはいえそうである。

また、(5)のように、名詞を列挙しない単独での用法は比較的多く見られたため、これらについても、新聞とどのような差異があるかは検討すべき点と思われる。

- (3) 三日目、四日目と千代大海、魁皇の2大関を連破。

[PM11_00798] 『大相撲』

- (4) ミレー、クールベ、ドービニーほか31作家103点を紹介。

[PM21_01067] 『Weeklyびあ』

- (5) 芸人転じて闘士となりメキシコ革命で大活躍する2女性を描いたコメディ活劇。

[PM21_00473] 『TVガイド』

6. BCCWJ「雑誌」レジスターにおける名詞の助数詞的用法

本稿では、これまで新聞資料を対象に収集されてきた「名詞の助数詞的用法」が他の媒体においても見られるかについて、新聞とは異なる書き言葉資料であるBCCWJの雑誌レジスターを対象に調査を行った。

東条(2014a)他の従来の調査と同様に、準助数詞は〈抽象的關係〉を示す意味分野に、擬似助数詞は〈人間活動の主体〉を示す意味分野に多いという結果が得られた。しかし、語種という面では、新聞と比較すると外来語の占める割合が多い結果となった。これには、雑誌のジャンルによる専門性が関わっていると考えられる。

また、容器型助数詞・準助数詞においては、新聞と共通する語例が多く見られた一方で、擬似助数詞には共通する語例はあまり見られなかった。可付番性があり、より汎用的に助数詞として用いられる名詞と、可付番性がな

く、文脈に依存する名詞との違いが表れる結果となった。

雑誌のジャンルごとの調査では、ジャンルを問わず用いられる名詞と、雑誌のジャンルの専門性を反映した名詞が見られた。現段階では単純な調査に過ぎないため、今後、各ジャンルの特徴語なども抽出しながら、雑誌における名詞の助数詞的用法の比較を行う必要がある。

BCCWJの雑誌における擬似助数詞においても新聞の調査で多く見られた「A,B,Cの3〇〇」タイプの表現が見られた。しかし、新聞に比べて語例も用例も少ないという結果になった。今後、「人を表す語」以外に意味範囲を広げ、個々の語がどのように用いられているのかと共に検討することで、雑誌における擬似助数詞の特徴をより明確にできると考える。

本稿では、BCCWJにおける名詞の助数詞的用法について調査した結果を示したに過ぎず、詳細な考察までは至らなかった。雑誌は扱う内容の方向性により、商品の紹介など宣伝を目的にするもの、事件やスポーツの試合結果等を報道するもの、生活情報を発信するもの等、多岐にわたる。それぞれの誌の記事の特徴をふまえたうえで分析を行うことで、新聞で見られた特徴とは異なる傾向が見つかる可能性がある。今後の課題としたい。

[付記]

本研究はJSPS科研費(JP19K13184)による助成を受けている。

[注]

- 1) 『分類語彙表』に記載のなかった語は次の24語。アイレット、アクセス、アシスト、アンダー、営業拠点、キャリア、クール、検体、殺法、新興企業、セグメント、セッション、ダイブ、テイスト、冬季大会、トレー、バンク、ピース、ピクセル、部落、プラモデル、ポート、ホール、養鶏農場
- 2) 129種の意味分野ごとの語例数の内訳は〈抽象的關係〉70種、〈人間活動-精神および行為〉22種、〈人間活動の主体〉30種、〈生産物および用具〉5種、〈自然物および自然現象〉2種であった。

[参考文献]

- 影山太郎他(2011)「第1章 名詞の数え方と類別」影山太郎編『日英対照 名詞の意味と構文』pp.10-35, 大修館書店.
- 国立国語研究所(2004)『分類語彙表一増補改訂版一』大日本図書
- 田中佑(2012)「日本語助数詞の範囲一名詞と助数詞の連続性一」『筑波応用言語学研究』19, 117-126.
- 東条佳奈(2014a)「名詞型助数詞の類型一助数詞・準助数詞・擬似助数詞一」『日本語の研究』10(4), 16-31.
- (2014b)「名詞型助数詞の構文と傾向」『待兼山論叢 日本学篇』48, 83-100.
- (2017)「擬似助数詞」の成立可否を決める要因」『現代日本語研究』9, 76-95.
- 成田徹男(1990)「名詞と同形の助数詞」『都大論究』27, 1-8.
- 眞野美穂・米澤優(2013)「生成語彙理論による助数詞の分析」『レキシコンフォーラム』6, 139-170.
- 山崎誠(2015)「第2章『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の設計」国立国語研究所コーパス開発センター『「現代日本語書き言葉均衡コーパス」利用の手引 第1.1版』
https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/doc/manual/BCCWJ_Manual_02.pdf
(2020年9月1日最終アクセス)

(文学研究科助教)

SUMMARY

Research on the Nouns Used as Classifiers in Magazine Data
from the BCCWJ

Kana Tojo

This paper describes the results of a study of nouns used as classifiers based on magazine data from the Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ). Nouns that are used as classifiers are classified into two types: container-type and non-container-type. The container type is used to measure volume, with reference to a noun as a container. The non-container-type consists of two subgroups: quasi-classifiers and pseudo-classifiers. Quasi-classifiers are used to count numbers by accumulating them; many denote abstract relations and are used to supplement the numeral classifier system in Japanese. Pseudo-classifiers, on the other hand, are used temporarily with numerals in a sentence. They tend to be composed of nouns for which concreteness is high. Persons and organizations are examples of pseudo-classifiers; they function as endophora. Pseudo-classifiers are used only in NQC and N-no-QC type quantifiers. Both quasi-classifiers and pseudo-classifiers are likely to be used as summative appositive.

However, the examples used for analysis were extracted from a newspaper corpus only. Therefore, in this study, I extracted examples of nouns used as classifiers from the BCCWJ and compared them with examples from newspapers. The results showed that, as in previous surveys, quasi-classifiers were more common in semantic fields for indicating 'abstract relations' and pseudo-classifiers were more common in semantic fields for indicating 'subjects of human activities'. However, in terms of word types, foreign words accounted for a larger percentage in this study than in newspapers. This is thought to be related to the specialized nature of magazines. On the other hand, pseudo-classifiers in magazine data, did not have many similarities with those in newspapers. In the survey for each magazine genre, some nouns were used regardless of genre, while others reflected the specialized nature of a magazine.